

関西学院大学 研究成果報告

2022年 5月31日

関西学院大学 学長殿

所属：国際学部
職名：教授
氏名：平林 孝裕

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input checked="" type="checkbox"/> 特別研究期間 <input type="checkbox"/> 自由研究期間 <input type="checkbox"/> 大学共同研究 <input type="checkbox"/> 個人特別研究費 <input type="checkbox"/> 博士研究員 ※国際共同研究交通費補助については別様式にて作成してください。
研究課題	セーレン・キルケゴールにおける《信仰の心理学》に関する歴史的研究
研究実施場所	自宅・研究室
研究期間	2021年4月1日 ～ 2022年3月31日（12ヶ月）

◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

セーレン・キルケゴールは、19世紀デンマークで活躍した「詩人哲学者」といわれる。その独自の人間論はのちの実存思想や現代神学に大きな影響を与えたが、19世紀デンマークという歴史的条件からその思想解釈に比べると、歴史的研究は必ずしも十分とはいえない。近年、新しい校訂版全集が刊行され、いよいよ歴史的研究が充実される環境が整っている。そのような歴史的研究のなかでも、デンマークの「心理学」思想の系譜に着目してきた。とりわけ「心理学」は、当時の大学でも重要な科目として講じられており、当時の思想的背景として看過することができないものである。このような心理学、具体的にF・Chr.シバーンなどに連なる思想家として位置づけることを試みてきた。すでにそのような関心からシバーン『心理学』に注目し、「「共感的反感」とは何か:セーレン・キルケゴール『不安の概念』における心理学的表現に関する一考察」（2019年）を発表し、本稿にてのこされた課題に取り組むことを期した。あわせて歴史的研究に関連して、ヨアキム・ガーフ著『キルケゴール伝』の翻訳に取り組んでおり、その後半部の翻訳作業をすすめることを期待した。あわせて、キルケゴールをふくめた黄金時代における文法が現代デンマーク語文法から少なからず変化があるにもかかわらず従来、適当な手引きがなかったため、「E.F.C. ボイエセン著『デンマーク語小文法』」（2021年）を基礎作業として翻訳したが、当時の人びとにむけて書かれているため、現代にとって情報が不十分なところがあり、今後これを補うため現代と対照したデンマーク黄金時代の文法を解説するための準備作業を行った。

キルケゴールにおける心理学思想の研究に関して、「共感的反感」を論じた前掲論文で「共感的／反感的」（sympathetisk／antipathetisk）及び「自己情念的」（autopathisk）という諸用語がシバーン『心理学』に由来する事情とそれにもとづいたテキスト解釈の可能性を論じた。しかし、シバーンの心理学において「自己情念的」に相当するものが、かつて「エゴイスト〔的／エゴイズム〕」（egoistisk／Egoisme）という用語にて表現されていたが、キルケゴールにおけるこの用語の使用について十分に論究することができなかった。「エゴイスト的」という用語は、当時の辞書においてもはっきりと外来語として記載され、その意味は今日的な「利己的」と置換できるよりも幅広かったことが窺われる。後年のヘフディング『心理学』にも見られるように、単なる「道徳的評価」を述べるのではなく心理学用語としても使用されていた。キルケゴールの本文においてもこの点が注意される。

『あれか-これか』においては、「エゴイスト的」という表現がしばしば用いられるが、それは多くの場合「共感的」と対比して用いられており、人間心理における「自己／他者志向」という対比における規定であり、「自己情念的」とほぼ置き換え可能なものである。この用語法には明瞭にシバーンの影響が見られ、その意味で『あれか-これか』における「エゴイスト的」は心理学的表現としてまず理解されるべきことが明らかとなる。ふたたびこの表現が頻繁にみられるのは『人生行路の諸段階』である。『諸段階』においては「自己情念的」と「エゴイスト的」という表現が用いられているが、はっきりとした傾向があり、フラター・タシトゥアヌス「読者への手紙」では「エゴイスト的」が用いられ、「《有罪か？》・《無罪か？》」などの本文では「自己情念的」が概ね用いられており、用語選択を仮名著者に応じて変えていることが推測される。「共感的」・「共苦」（Medlidenhed）との対比から『あれか-これか』と類似した用語使用であると理解することが適当である。

キルケゴール思想の転回点となった『後書』より後の時期では「エゴイスト的」という表現は「倫理＝宗教的」な批判概念に発展していき、当時の日誌記述及び『瞬間』に見られることになる。ルカ福音書14章26節（「自分の命さえも憎まないものがあれば」）におけるイエスの言葉に導かれて、当時の教会の在り方を批判する表現とされている。「この世的なもの」にから脱することができない牧師職の在り方、具体的にはミュンスター的なものが「エゴイスト的」と非難されている。さらにキリスト教徒をただ数において増やす「結婚」「国家」が「社会的」なエゴイズムの傾向としてキリスト教の根幹を掘り崩すものとされる。

以上のようにキルケゴールの「エゴイスト的」「エゴイズム」が心理学的表現また倫理＝宗教的表現として、その用法が明らかとなった。『キリスト教と文化研究』に寄稿予定である。

ヨアキム・ガーフ『キルケゴール伝』の翻訳について訳了には到らなかったが、近日中に全訳を見通せるところまで進められた。ただし、新型コロナウイルス蔓延の状況から期待していたデンマーク滞在がかなわなかったため、事実確認に要する資料収集したり原著者に不明箇所を直接確認したりする機会をえられなかったことは残念である。さらに訳文の再検討、引証箇所を原資料から確認するほか、索引等の作成作業がのこされている。これらの作業のため刊行には今しばらくの時間を必要とする。

また、デンマーク黄金時代の文法については当時の各種文法書及び最新のデンマーク語史・文法体系、くわえて各種の正書法辞典を網羅的に収集することができた。とりわけ、受動態・完了形及び過去分詞の用法をめぐる歴史的な変遷（受動態における過去分詞及び補助動詞が主語と一致することとされたが、これが今日大きく変わっている。また過去分詞の中性形が不変形の完了分詞とされる扱い）が関心となった。また、過去分詞の扱いについては、強変化動詞における性・数等の今日の扱いについても、しばしば十分な説明がなされていないので、構想中の文法の手引きの執筆において反映させたい。

以上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

※個人特別研究費：研究費支給年度終了後2ヶ月以内 博士研究員：期間終了まで

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※特別研究期間、自由研究期間の報告は所属長、博士研究員は研究科委員長を経て提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。